



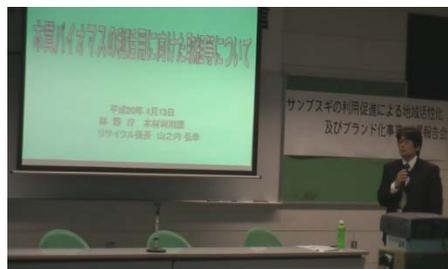
里山と森林・林業

報告者：稗田 忠弘



分科会の内容紹介

- ・日時：2008年4月13日
- ・場所：山武市のぎくプラザ
- ・参加者数：63名
- ・内容 山武市のバイオマス利用の現況と展望



分科会の様子

本分科会のまとめ

■資源循環型の地域づくり

サンブスギによる住まいづくりを核に、森林と暮らしを結ぶ仕組みをつくり、自然、産業、経済の循環する地域をつくる。

■バイオマス資源の活用

住まいづくりとの結果発生するサンブスギ残材をエネルギー利用して資源の循環を完結し、山林の保全と活用に結びつけて山林の多面的機能を守る。

■行政・市民等に対する提言・提案

行政は地域の資源、人材を積極的に使う努力をし、民間事業者は事業を通じて地域貢献する「なりわい」を実践する。持続可能な地域社会を共通目標に、互いの役割を自覚し協力しあう関係を築く。



里山と技能伝承・茅葺屋根

報告者：木下敬三

分科会の内容紹介

- ・日時：2008年4月13日
- ・場所：山武市成東文化会館
のぎくプラザ視聴覚室
- ・参加者数：63名
- ・内容 里山に入る、或いは産物を利用するのに道具の他に技能が必要です。何もかも人任せでなく、自分で技能を身につける講座です。

分科会の様子



伊藤左千夫生家の屋根作業

本分科会のまとめ

■生物多様性と里山の観点

生活の食品・燃料・家屋材・・・すべて里山から。生活文化の回帰・再認識を主観点に開催しました。

■なりわいの観点

技能保持者から引き継ぎ、生業に結びつけるまで取得できるか？需要はあります。

■行政・市民等に対する提言・提案

1年目は引継ぎまでは難しい仕事です。市内に現存する屋根は継続したい。自然体験の場で茅を葺きたい。



里山と観光と食

報告者：遠藤イサム

分科会の内容紹介

- ・日時：2008年3月26日
- ・場所：「ろくすけ」南房総市平久里下
- ・参加者数：28名
- ・内容：南房総ワクワク村プロジェクト
「里山の暮らしをデザインする」

本分科会のまとめ

■H16～これまでの取組み

かやぶき屋根の修理、長屋門・蔵の整理、竹林と周辺の畑を整備し、苺・空豆・等栽培地域のおばあちゃんの指導でみそづくり

月1回第三日曜日に作業が行なわれるようになった。

■これからの取組み

H20年度で屋敷内も改修し、里山ぐらしを楽しく体験できる場をつくる。

そのためにどんな仕組みを作るのか地域を巻き込んだ取組みにするのが今後の課題





里山と動物福祉

報告者：石山大



分科会の内容紹介

- ・日時：2008年4月19日13:00～
- ・場所：Qiball
- ・参加者数：30名
- ・内容：野生動物の被害防除、「被害防除策」としての家畜の放牧など、野生動物・飼育動物双方の福祉についての話題提供を行った。



本分科会のまとめ

■自然共生農業システムと家畜福祉畜産

松木 洋一氏(日本獣医生命科学大学 名誉教授)に、近年のEUにおける家畜福祉畜産への取り組み等についてお話頂いた。

■森林管理におけるGISの役割

田中 和博氏(京都府立大学大学院教授)に、京都府におけるGISを利用したクマ対策の取り組み等についてお話頂いた。

■総合ディスカッション

基調講演より、農業の再生が動物の生活環境の向上につながることを再認識し、千葉県での取り組みに向けて今後も話し合いを継続することにした。





里山と水鳥と農業

報告者：荒尾 稔



分科会の内容紹介

- ・日時：2008年4月19日
- ・場所：キボール(Qiball)
- ・参加者数：30名
- ・内容 **分科会のキーワード**

人も生き物も自立する、生活を楽しむ。

農業が元気になり、人も元気になり、野生動物も水鳥も自立して元気になる

本分科会のまとめ

■農業の現場を介した人と生き物の共生

白鳥等の餌付けからの脱却と、自立策を促す。その手法と現実を、また利根川下流域での水鳥の復活をもたらす。

餌付け白鳥の自立と個体数自己管理がはじまり、千葉全域へ渡来地の分散へ

■農業と生物多様性となりわいと

里山の再生は農家の方々のやる気にかかわる。NPOや市民や行政がどのように関わりあおうとしても、肝心の地権者である農家の方々のやる気が引き出せない限り、なかなか前に進まない。

ふゆみずたんぼ・不耕起栽培は、温故知新であり、農家の方々の自立と生き方を活性化させる。。

■総合ディスカッション(2分科会合同)

基調講演より、農業の再生が動物の生活環境の向上につながることを再認識し、千葉県での取り組みに向けて今後も話し合いを継続することにした。



分科会の開催予定

- ・日時：2008年5月31日
- ・場所：いすみ市 農漁村体験案内所

・内容：

いすみ地域の里山、里海の取り組み

「里山と里海」分科会開催の趣旨

流域の自然環境・生物多様性保全の観点から、参加者と一緒に、さらに地域の人たちと一緒に考える集いを開催したい。

- 里海からの報告
- 里から里海へ
- 里山・里海を脅かす問題
 - 意見交換
 - ゲンジボタル観察会(オプション)



ハマヒルガオの群落



市有林調査

八千代の里山

報告者：高橋秀文

分科会の内容紹介

日時：2008年3月16日13:00-16:40

場所：八千代市総合生涯学習プラザ

参加者数：84名

内容：「生命をはぐくむ谷津・里山」をテーマに講演及び市の施策報告

本分科会のまとめ

■講演：「里山の意味と保全」

講師：ケビン・ショート氏

人々は里山で自然とバランスを保ち暮らしてきた。美しい原風景、文化、歴史、食文化、持続可能な暮らしの知恵と知識がある。生物多様性の高い自然であり、人間と自然のつながりを取り戻す環境教育の場、国民の癒しの場である。千葉の水田は渡り鳥の生息にとっても大切で、国際的な役割を果たす。保全のためには、NPOが出来ることには限りがあり、農家にとって自然に優しい農業が有利である状況を作ることが必要。

■講演：「里山の生物多様性と市民による生物モニタリング調査について」

講師：(財)日本自然保護協会 福田真由子氏

■八千代市から「水と緑を守る取り組み」等報告



分科会の様子



分科会報告 08



千葉市の里山と農業

開催予定

報告者：萩原康弘



分科会の内容紹介

- ・日時：2008年5月25日
- ・場所：千葉市富田都市農業交流センター
- ・参加者数：40名（予定）
- ・内容 「いずみの森」での森林ボランティア活動の見学及び自然観察と農業体験



いずみの森

千葉市富田都市農業
交流センター



本分科会の開催趣旨

■千葉市の里山

千葉市は「いずみの森」「ひらかの森」「おぐらの森」を「里山地区」に指定しており、森林ボランティアによる保全活動が行われている。

■「里山地区」指定の目的

身近で大切な里山の保全、森林の公益的機能の確保、景観の維持をはかることにより、里山や森林に対する理解と、関心を深める。

■千葉市の農業施策

里山を取り巻く農業を振興し、都市と農村の交流を通じた地域の活性化を推進している。





我孫子市と里山

報告者：木村 稔



分科会の内容紹介

- ・日時：2008年2月16日
- ・場所：近隣センター「こもれび」
- ・参加者数：33名
- ・内容 市民の手による田んぼの復田作業報告及び里山保全と人づくりの基調講演等

分科会の様子



本分科会のまとめ

■市民の手による田んぼの復田作業報告

我孫子市の谷津ミュージアム事業の拠点である「田んぼ広場」において展開された市民の手による整備を中心に報告。今後、復田した田んぼで様々な方々に伝統的農業の手法を学んでいただき、上流部の休耕田・放棄水田の復田を目指していきたい。

■基調講演「里山の保全と人づくり」

横浜市舞岡公園「小谷戸の里」小林哲子氏の基調講演。里山保全に参加する人々の多様な価値観に基づく、「思い」「願い」「夢」「意思」をどう受け止め、どのように合意形成しながら活動を続けているのか学習した。土地所有者・農業者・市民・行政等がそれぞれ得意な分野で連携し、情報を共有し、上手に合意形成をしながら進めていくことが重要である。





里山と残土・産廃

報告者：井村弘子



分科会の内容紹介

- ・日時：2008年5月10日
- ・場所：きぼ一る13階多目的室
- ・参加者数：30名
- ・内容 残土を入れて農耕をすることを行政はどう考えているのだろう

本分科会のまとめ

■木更津真里谷のゴルフ場跡地30haに残土を入れて農耕する業者に対して県はそのうちの5haを許可した。周りの住民は残土でやることを聞いていない。

■木更津農業委員会は賛成できないといったが、千葉県農業委員会は業者の言い分を認めた。

しかも彼らは10月に残土を入れきゅうりを作り築地市場に持っていくという

■出席者たちはみなこのようなことを許可したら千葉県中が残土の畑で埋まってしまおうとそれはおかしいとたくさんの意見が飛び出した。みな怒った。「とんでもないことである。住民に決起を働きかけよう」「県の理不尽を糾弾しよう」と画策を練った。あらゆる方法でこのおかしさを千葉県民に都民に知らせよう。

第5回 里山フェスティバル「里山シンポジウム」



里山と森の復元

報告者：緑の環・協議会
星野正人

分科会の内容紹介

- ・日時：2008年3月8日
- ・場所：千葉市緑区小山町観音地他
- ・参加者数：自然観察会52名植樹祭152名
- ・内容 身近な地域の自然と森林の大切さに目を向け地域住民と子供が参加し、村田川源流域の水源涵養林として、砂利採取跡地1.5haに600本を植林し、成長を願いお祝い。子供は感想カード、大人は昼食懇談で感想・意見を聞いた。

分科会の様子



■まとめ 本分科会のまとめ

①土地改良区だけでは、産廃計画跡地の森の復元は困難であり、多くの関係者の支援が必要。②小山町に残る里山の自然の大切さを参加者にアピールできた。③事前準備活動を通じ、専門家からの植栽計画指導、苗木・腐葉土の提供等多くの関係者からの支援・協力が得られた。④土地改良区組合員と地元住民との交流ができた。

■課題

参加者を中心に「森を守り育てる会」を立ち上げ、定例的に森の手入れ活動・自然観察会を実施するが、息の長い活動となるので、できるところからできるだけのことを実践する等運営方法に工夫が必要。

■参加者の感想

①とても楽しく子供たちも親も経験のない生き物や井戸水にふれ、生き生きしていた。②植えた木の様子を時々見に来たい。③手入れなどをするとき参加したい。④こんなに貴重な自然が残っているとは知らなかった。



里山とWebgis情報の活用

報告者：荒尾稔

分科会の内容紹介

- ・日時：2008年5月10日PM1～6時
- ・場所：キボール(Qiball) 13F3号室
- ・参加者数：35名
- ・内容「市民情報と行政情報の融合と情報発信」を目指して

生物多様性と同様、情報多様性が
必要。里山は文明から文化の論理
なりわいの再生と復活の場



本分科会のまとめ

■ どのようにして里山から情報を収集するか

- 京都府での自然情報公開の流れを事例として紹介
京都府立大学大学院生命環境科学研究科 田中和博
市民からの情報を精査と監査し、NPOや市民の責務としてデータを蓄積、HPで発信。情報の一部を行政にも提供する。
- 30年間にわたる何百人に及ぶ継続調査の構築事例
日本雁を保護する会 呉地正行さんの講演
- 里山で450種の毎週1回5年間生き物調査構築事例
千葉県四街道市「ムクロの里」世話人 山崎輝清
- 「市民情報収集方法の事例」NPO八千代オイコス 寒川 裕

■ 里山での生物多様性は、文化から文明へ

- 情報収集には、市民、NPO、行政の間での機能分担が必要
調査方法の多様化とデータの分散化が欠かせず、生物多様性と同じくらい、情報の分散化と人の多様な価値観確保必須。
- 情報の収集とデータ蓄積化には、多数のNPOや市民の永年の参画が必要。顔の見える関係と心の通じた人材育成が必要で、まさに京都でいえば家元制度が参考になる。

■ 市民、NPOによる民間での情報センター構築

- 即時、日、随、月次、年次による情報の時間差による管理。情報品質の管理とルール化は会計手法による





里山と政策

1

報告者：小西由希子



- ・日時：2008年4月19日(土)
- ・場所：Qiball(きぼーる) 15F多目的室
- ・参加者数：40名
- ・内容：民間型環境直接支払制度と
生物多様性農業支援について
- ・講師：原耕造氏(田んぼの生きものプロジェクト)

■何かがおかしい日本の農業・米政策の低迷

■世界の農業：1992年から流れが変わってきた
(GUR(市場原理の導入)と地球環境サミット)
環境政策と農業政策の一体化

■所得補償(環境直接支払い)
農業＝「公共の景観や環境」に金を払う
国民の議論や認識が不可欠

何に支払うか？—“生物指標”
気候・風土・歴史・文化・暮らし方の結果
(生きもの調査による裏付け)
生物多様性農業支援センター

■行政・市民等に対する提言・提案
環境負荷を軽減する農産物の価格を補償する
ことが、生物多様性や環境の保全になるのだ
ということを多くの納税者が認識することが必要





里山と政策 第2分科

報告者：金親博榮



・日時：4月19日(土) 14:40~18:00

・場所：Qiball 参加者：40名

・内容：

千葉県の森林の現状を知り その保全・再生のあり方について学習。
森林環境税の導入の条件と、使途・効果について考える。



本分科会のまとめ

■千葉県は日本の森林の百貨店

- ・森林率は全国平均の1/2
- ・小規模・農林兼業→木材生産業の成立
→困難
- ・県民要望の対象 都市・近郊・山間

■森林環境税は31県で実施決定

- ・県民全体の負担で意識啓発
- ・県民税への上乗せ 500円程度

■CO2吸収源としての健全な山林の確保

- ・全国平均値1.9万haの間伐達成で

里山・環境・生物多様性立県





里山と医療福祉

報告者：増田淳



「4月6日森林療法の実施」

ある1人の感想と絵

- ・日時： 4月6日
- ・場所： 船橋県民の森
- ・参加者数： 27名
- ・内容
テーマ： 光の中で、皆で楽しく遊ぶ

方法：
感想を話したり絵にしてもらったりした

始めの感想 自分を見つめたい
中ごろの気分 運動不足を感じた
終わりの感想 渦巻きになった絵だ



今後の日程

- 5月11日(日曜日) 千葉泉自然公園 **実施済み**
- 6月 1日(日曜日) 清和県民の森 **11時集合**
- 8月24日(日曜日) 清和県民の森
- 11月23日(日曜日)
船橋県民の森または神崎町大峰教育の森
- 平成21年2月22日(日曜日) 佐倉市民の森





里山と伝統・文化

報告者：清藤一順



分科会の内容紹介

- ・日時：2008年 5月10日
- ・場所：千葉県立中央博物館
- ・参加者数：12名
- ・内容 第2・3回の分科会の成果と併せて、今回を集大成に縄文時代から中近世までのムラの景観を時代を追って考えることによって、里山の源流をたどった。

分科会の様子



本分科会のまとめ

■里山の源流

各時代の土地とのかかわりを歴史学・考古学の分野から掘り下げることによって、弥生後期の谷津利用の開始に里山の源流があると結論

■里山景観の見方

遠い昔から形成され続けてきた里山が重なりあった結果が、現在の里山景観となっているとの認識が重要

■過去の開発と抑制の相克

歴史的な変遷を具体的に検証・分析した上で、これからの自然と人間が共生する里山文化？のあり方を新たに組み立てる必要がある。





里山と教育

報告者：佐野郷美



分科会の内容紹介

- ・日時：2008年5月10日
- ・場所：千葉県立船橋芝山高等学校
- ・参加者数：40名
- ・内容：

里山環境を復元した学校ビオトープ「芝山湿地」の見学、里山保全、生物多様性の維持における学校ビオトープの可能性について



本分科会のまとめ

- 芝山湿地は復元型ビオトープ
かつての谷津田の自然を復元したビオトープで、多種多様な里山生物が生息し、地域の生物多様性を維持する場になっている。
- 継続が課題
良好な環境を保つ学校ビオトープも、担当者の異動等で生物多様性も失われ、教育活動にも生かされなくなる。いかに維持できるかが課題である。
- 地域との連携がカギ
地域住民や地域のNPO,NGOとの連携で維持されている学校ビオトープは、担当教師が異動しても継続できる可能性が高い。
教育委員会は教師の配置に配慮すべきだが、学校ビオトープの維持には地域との連携がカギ。



里山と生物多様性

報告者 鈴木優子

分科会の内容紹介

- ・日時: 2008年4月19日
- ・場所: 千葉市きぼ一
- ・参加者数 45名
- ・内容 生物多様性ちば県戦略の啓発と、里山の生物多様性を脅かす温暖化と外来種について情報交換。

分科会の様子



本分科会のまとめ

■生物多様性ちば県戦略は、
千葉県の生物多様性は劣化の一途の現状から必要性が高まり、全国に先駆けて、千葉方式で策定した。

■生物多様性を脅かす温暖化と外来種

生物暦のずれ、移入種、アライグマ、作物への影響、東京情報大学生の研究などを情報交換した。

■生物多様性研究センターへの期待

市民情報と研究を集約して、生物多様性ちば県戦略に生かしていこう。



里山と竹

報告者：田代武男

分科会の内容紹介

- ・日時：2008年5月10日
- ・場所：成田市竜台の竹園
- ・参加者数：32名
- ・内容 放置された竹林が拡大している現状と竹害排除の実際

本分科会のまとめ

■失われた動植物の多様性

竹林が放置されると里山の景観が大きく変わるだけでなく、ひいては日本の美しい原風景が様変わりしてしまいます。

放置された竹林は悪循環で、里山の多様な動植物が近年急速に失われつつあります

■竹害を排除する

竹の本体は、地上に出ている竹桿ではなく、地下茎にあります。伐採だけで竹を絶やすことは非常に困難です。

竹の特性をよく理解した竹蓋排除は必要で地下茎の根絶を目指すことが大切です

■放置された竹林の活用と竹林セラピー

地区リンを健康回復や健康増進に役立てたいと考えています。竹林セラピーは、新しい竹林の活用です

分科会の様子





里山と水循環

報告者 桑波田 和子



分科会の内容紹介

- ・日時: 2008年4月19日
- ・場所: きぼーる 会議室3
- ・参加者数: 30名
- ・内容 川の再生と生物多様性
～再生した川、再生へ取り組む川～



分科会の様子



本分科会のまとめ

■講演: 坂川(松戸市)の再生

講師: 林 薫氏 千葉県河川環境課

かつては悪臭漂うどぶ川が、官民挙げての総力を結集し浄化への願いがやがて、アユまですめる都市河川として蘇った。そこには生きものが豊かになり人々が集う水辺となった。

■講演: 都川総合親水公園整備事業

～生きものの目標を掲げた小川の再生～

講師: 齊藤 久芳氏 千葉市花の美術館

ふるさとの原風景といきものに触れ合える田園公園をテーマとし、モニタリングを基に、多様な動植物が生息・生育できる自然環境保全と再生を市民参画で進めている。

■提案

- ・計画段階から市民の参画。・水量の確保等





里山と都市緑地

報告者：山田純稔



分科会の内容紹介

- ・日時：2008年4月20日
- ・場所：「関さんの森」松戸市幸谷
- ・参加者数：86名
- ・内容 関さんの森ウォッチング

タケノコ堀り体験，野草の天ぷら試食



本分科会のまとめ

■都市に残された里山の価値

都市に残された、生物多様性に富む里山は、近隣の学校・市民の、自然体験・環境学習の場。きわめて公共性の高い空間。

■住宅に囲まれた森の悩み

市街化区域内の里山は、相続税の関係で、残すことが困難。周辺住民からの苦情(落葉・落枝・倒木・日照・ゴミ・防犯)も多い。

■「関さんの森」と道路問題

「関さんの森」を分断する道路工事が迫っている。貴重な「関さんの森」を「エコミュージアム」として残し、整備・活用するために、地下案・迂回案を提案している。しかし、市は強制収用も辞さないかまえ。ご支援をお願いします。



里山と生物多様性

報告者：加藤賢三

分科会の内容紹介

- ・日時：2008年4月26日 13:00~16:50
- ・場所：千葉県立中央博物館 講堂
- ・参加者数：43名
- ・内容 「ホタルから見えるもの」
どうすれば、地域のホタルが残せるか？

本分科会のまとめ

- 基調講演 日本と中国のホタルの多様性
講師：大場義信（大場蛍研究所長）日本のホタルのルーツは中国にあることが中国のホタルの多様性の調査から示唆された。
- 県内ホタル事情○ゲンジボタルの幼虫上陸と羽化時期（手塚幸夫）○千葉県のクロマドボタル（大和田正）○房総半島のヒメボタル（倉西良一）

分科会の様子



■各地のホタルだより
富里、四街道、八千代

■地域のホタルを残す！
○農林業のなりわい、活性化○地域のホタル生息調査○内浦山県民の森の継続的ホタル調査○ホタルのみではなく、ホタルのすめる環境の保全。

